

平成26年度当初予算 施策 取組概要

**311 農林水産業のイノベーションの促進**

(主担当部局：農林水産部)

- 31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり (農林水産部)
- 31102 農畜産技術の研究開発と移転 (農林水産部)
- 31103 林業・森林づくりを支える技術の研究開発と移転 (農林水産部)
- 31104 水産技術の研究開発と移転 (農林水産部)
- 31105 県民の皆さんと農林水産業の支え合う関係づくり (農林水産部)

**県民の皆さんとめざす姿**

豊かで健全な食生活への志向が広がる中で、多様化する期待に応える新たな価値が農林水産業や食品関連産業等に関わるさまざまな主体から積極的に提案され、地域資源の特徴を生かした競争力ある製品等が提供されることにより、県民の皆さんの豊かな暮らしや「もうかる農林水産業」につながっています。

**平成27年度末での到達目標**

本県がこれまで取り組んできた食育や地産地消運動、三重ブランドをはじめとする取組の戦略的な発展と商品等の研究開発を強化する中で、地域の資源や特徴を生かして新たなビジネスに取り組む農林水産業者や事業者、地域が増加するとともに、新たな市場の開拓や環境など社会の成熟化に伴うさまざまな期待に対応した取組が増加しています。

**県民指標**

目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
県産品に対する消費者満足度	25.2%	28.0%	33.0%		36.5%	40.0%
	25.2%	29.5%				

**目標項目の説明と平成26年度目標値の考え方**

目標項目の説明	県産の農林水産物に対して、満足していると回答した県内消費者の割合
26年度目標値の考え方	平成27年度の目標達成に向け、平成24年度の実績値が29.5%であったことから、毎年度3.5%ずつ消費者満足度を増やしていくことを目標とし、36.5%と設定しました。

**活動指標**

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値
31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり (農林水産部)	農林水産資源を高付加価値化するプロジェクトの創出数(累計)	—	10件	(達成済)		(達成済)	25件
		—	29件				

\*達成済：目標値が累計値の場合において、27年度目標値をすでに達成していることを示しています。

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 目標値	目標値 実績値
31102 農畜産 技術の研究開発 と移転 (農林水産部)	農畜産技術の開発 成果が活用され た商品等の数 (累計)		25件	50件		75件	100件
		—	25件				
31103 林業・森 林づくりを支 える技術の開 発と移転 (農林水産部)	林業の研究成 果が活用され た商品および 技術の数 (累計)		5件	10件		15件	20件
		—	5件				
31104 水産技 術の研究開発 と移転 (農林水産部)	水産技術の開 発成果が活用 された商品等 の数 (累計)		5件	15件		25件	35件
		—	9件				
31105 県民の 皆さんと農 林水産業の 支え合う 関係づくり (農林水産部)	企業との連 携による食 育等のPR 回数		8件	8回		8回	8回
		—	11回				

### 進捗状況（現状と課題）

- ・みえフードイノベーション・ネットワーク会員数は約 260 者となり、昨年立ち上げたプロジェクトを引き続き支援するとともに、新たに7つのプロジェクトを立ち上げました。販売力のある事業者との連携や、県内資源の活用検討会などを定期的に開催することで、さらなる売れる商品づくりを促進する必要があります。また、企業等と連携できる意欲ある生産者の6次産業化を支援する必要があります。
- ・戦略的ブランド化推進事業に関しては、三重ブランド認定志向を持つ事業者に対し、実施計画に沿った支援を進めています。今後とも、三重ブランド認定に取り組む事業者を育成する必要があります。「みえセレクション」については、新たに18件を選定し、総数40件となりました。引き続き選定品の増加を図るとともに、「三重テラス」等を活用した県産品の販路拡大に取り組む必要があります。また、事業者の商品力・営業力向上を図るフードコミュニケーションプロジェクト集中研修では、受講者12者の研修を進めており、今後も研修の実施を通じて事業者の商品力・営業力向上を図ることが必要です。
- ・神宮式年遷宮の機会を活かして、10月から実施している「平成おかげ参りプロジェクト」については、本年度開催する14百貨店と準備を進めました。この取組を通じて、県産品の販路拡大と県内への誘客が図られるよう効果的な情報発信を進めていくことが必要です。
- ・台湾での「三重県物産展」については、昨年度の実績も踏まえて事業者を選定し、県内10事業者、29商品が出品され8月に実施しました。また、本年度初めてタイで実施する「三重県物産展」の準備を進めました。今後は物産展開催にとどまらず、現地バイヤーとの商談会や意見交換の場づくりを進めていくことに加え、物産展の実績や県内事業者に対するニーズ把握調査結果を踏まえた県全体での農林水産物等県産品等の輸出方針の検討と支援体制の整備が必要です。
- ・県研究所では、研究成果の商品化に向け、企業等とのコーディネートや市場動向、商品化ニーズ等の情報提供を行う「商品化等コーディネーター」を活用して、企業等による早期活用が期待される研究成果の選定を進めました。今後とも、ニーズに対応した商品開発と円滑な技術移転に向け、食品産業事業者や生産者等との連携を強化していくことが必要です。
- ・農業及び畜産研究所では、研究コンソーシアムによる活動などを通じ、これまでに、実需者のニーズに対応したトマトを生産するための「専用給液装置」の試作機や伊勢茶活用の「濃厚カテキン茶」の農業者への技術移転、育成した赤米品種活用のかき餅や甘酒等の試作品開発、肉用牛への飼料米給与技術の畜産事業者への移転につなげることができました。また、国等の研究資金を活用し、トマト養液栽培における病害の簡易診断技術や田植えと同時に肥料を散布する機械に使用できる鶏糞肥料のペレット化などの技術を開発しました。

- ・林業研究所では、全国で初めてのオオイチョウタケの施設人工栽培に成功したほか、森林資源の情報をデジタル化し将来の姿をシュミレーションすることができる新たな森林管理システム e-forest の現地実証に着手しました。また、計画的に木材を収穫するためのシステム収穫表などこれまでに開発した技術の普及に取り組んでいます。
- ・水産研究所では、真珠の品質として重要な「光沢、シミ・キズ」に着目した県産真珠の品質向上技術の改良、アワビ等の放流技術の向上、魚類や黒ノリ等の養殖技術の向上に取り組みました。真珠養殖業者への技術普及に加え、アワビの再捕率向上と漁獲が容易な漁場造成、魚病発生による生産率の低下、高水温化や赤潮プランクトンの発生による黒ノリ等色落ち被害などに対応した技術開発が必要です。
- ・「みえ地物一番」キャンペーンへの参加事業者が4件増加し、891件となりました。また、参加事業者がキャンペーンを効果的に実施できるように、事業者自らがキャンペーン実施日を設定して取り組めるよう制度の改正を行いました。県産品に対する購買意欲の醸成のため、引き続き、流通事業者等が地産地消に取り組みやすい環境づくりを進める必要があります。
- ・給食食材の需要側及び供給側の関係者が集まる「地場産品導入促進検討会」を設置し、学校のニーズに応え、骨まで食べられるマイワシの加工品と県産しめじを使った炊き込みご飯の素の開発に取り組むことになりました。引き続き、学校給食向けの商品開発を進める必要があります。
- ・環境に配慮した農業生産活動に対する消費者の理解促進に向け、環境貢献度を示す指標を活用した販促ツールを用いて、農産物の販売実証の取組を進めています。今後、活用指標を用いた効果的なPRなど情報発信手法を確立する必要があります。

## 平成26年度の取組方向

- ・みえフードイノベーション・ネットワーク会員の拡大を引き続き図るとともに、ネットワークを通じた新たな商品開発プロジェクトの創出や高い商品力を持った意欲ある生産者等による流通の新たな仕組みづくりへの支援により、県内農林水産業を牽引する売れる新商品等を創出します。また、経営アドバイスなどの6次産業化サポートや6次産業化ファンドの活用など異業種との連携を強化し、意欲ある生産者の6次産業化を支援します。
- ・戦略的ブランド化推進事業では、これまで支援した事業者に対し、継続的に支援を行います。また、引き続き「みえセレクション」の選定に取り組むとともに、フードコミュニケーションプロジェクト集中研修を通じた事業者の商品力、営業力の向上等に向けた支援を行います。
- ・「平成おかげ参りプロジェクト」については、県産品の販路拡大と県内への誘客につながるよう、神宮式年遷宮の機会を活かした取組として引き続き実施するとともに、最終イベントとして伊勢で物産展を開催します。
- ・台湾、タイでの三重県物産展の成果や課題を踏まえ、農林水産物等県産品の輸出支援体制の構築を図るとともに、現地バイヤーとの商談や意見交換の場の創出等を行い、東アジア、アセアンを中心に県産品の輸出拡大を図っていきます。
- ・県研究所では、引き続き商品化等コーディネーターと連携して企業訪問等を行い、生産者や事業者等のニーズを踏まえた研究や技術開発を進め、研究成果の商品化等に取り組めます。
- ・農業及び畜産研究所では、実需者のオーダーに的確に対応できるトマトの生産技術、東紀州地域の温暖な気候を生かした亜熱帯果樹の特産化、代替飼料給与技術等を生かした肉用牛の肉質改善など、研究成果を生かした商品や生産技術の開発等に向けて、課題ごとに策定している研究計画を進捗状況に応じて的確に見直すとともに、これまでの成果や生産者・食品産業事業者等のニーズを十分踏まえたうえで新たな研究課題の設定を行い、研究に取り組めます。

- ・林業研究所では、オオイチョウタケの施設人工栽培の実用化に向けた技術の確立や新たな森林管理システム e-forest の実用化に取り組みます。また、効率的な集材システム、伐採跡地における広葉樹林の育成、ニホンジカの効率的な捕獲技術などこれまでの研究や、林業者等のニーズを踏まえた技術開発を進め、その成果の移転に取り組みます。
- ・水産研究所では、高品質真珠の生産に係るアコヤガイの養殖技術の開発に関する研究を進め、養殖現場への成果の移転を進めます。また、アワビ等の放流技術や養殖魚種の複合化による養殖ビジネスモデルの確立、さまざまな漁場環境に対応した海藻類の品種の開発や生産技術の改良など、生産性や収益性の向上を図る取組を進めます。
- ・地産地消を推進するため、「みえ地物一番」キャンペーンの参加事業者の増加を図るとともに、県内量販店や飲食店と生産者とのマッチングを図るなど、流通事業者等が地産地消に取り組みやすい環境づくりを進めます。
- ・学校給食での県産品利用率を向上するため、給食センターなどの大量調理施設に合わせた商品や、アレルギーに対応した商品の開発を進めます。
- ・次期「環境保全型農業直接支援対策」への円滑な対応を進めるとともに、環境貢献度を示す指標を活用した効果的な消費者への情報発信手法について検討を進めます。

## 主な事業

### 農林水産部

- みえフードイノベーション運営事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
 予算額：(25) 32,148千円 → (26) 195,556千円  
 事業概要：農林水産資源を活用して、産官学連携による新たな商品等を革新的に生み出す「みえフードイノベーション」を推進するため、意欲ある事業者のネットワーク化、商品開発プロジェクトの創出、人材育成、商品力強化に総合的に取り組み、売れる新商品等の創出を支援します。
- 戦略的ブランド化推進事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
 予算額：(25) 9,994千円 → (26) 7,476千円  
 事業概要：特に優れた県産品を三重ブランドとして認定するための審査を行うとともに、ブランド化に取り組みたい事業者に対し専門家を派遣し、その価値について再評価するとともに必要な助言指導を行い、新たなブランド確立に向けた支援を行います。
- フードコミュニケーションプロジェクト推進事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
 予算額：(25) 7,978千円 → (26) 13,020千円  
 事業概要：特徴の優れた県産品を「みえセレクション」として選定し、営業活動を通じた販路拡大を支援します。また、大都市圏等への販路拡大をめざす事業者向けに商品力及び営業力の改善を促すための研修会を実施します。
- 三重県産品営業拡大支援事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
 予算額：(25) 45,304千円 → (26) 4,345千円  
 事業概要：三重県産品の販路拡大と観光誘客を図るため、観光・国際局と連携して、全国の有名百貨店と協力して物産展を開催する「平成おかげ参りプロジェクト」を実施します。

- (新) 農林水産物・食品輸出イノベーション事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
予算額：(25) ー 千円 → (26) 11,607千円  
事業概要：東アジア、アセアンを中心に県産品の輸出を促進するため、輸出支援組織を設置し、三重県物産展の実施や展示商談会への参加など海外への販路開拓を支援します。
- 商品化等研究成果活用促進事業【基本事業名：31101 新たなビジネス創出に向けた基盤づくり】  
予算額：(25) 1,000千円 → (26) 702千円  
事業概要：商品化等コーディネーターを活用して、各研究所における研究成果の実用化（商品化等）促進に取り組みます。
- 産学官連携「みえのリーディング農産商品等」開発事業【基本事業名：31102 農畜産技術の研究開発と移転】  
予算額：(25) 31,020千円 → (26) 32,710千円  
事業概要：産学官のさまざまな主体の知識や技術等を結集し、消費者のニーズに対応した農産商品等の開発を行うとともに、農業者等への開発技術等の移転・普及を図ります。
- 林業技術開発事業【基本事業名：31103 林業・森林づくりを支える技術の開発と移転】  
予算額：(25) 2,501千円 → (26) 1,787千円  
事業概要：森林・林業・木材産業に対する多様な県民ニーズに応えるため、オオイチョウタケの施設人工栽培の実用化やニホンジカによる森林被害の防除のほか、新たに効率的な間伐材搬出システムの選択などに向けた技術開発を行います。
- 新しい真珠養殖技術実証化事業【基本事業名：31104 水産技術の研究開発と移転】  
予算額：(25) 3,400千円 → (26) 3,400千円  
事業概要：光沢の良好な真珠を生産するアコヤガイの作出やシミ・キズの無い高品質真珠の生産率を向上させる養殖技術の開発研究を行い、養殖現場への成果の移転を進めます。
- (新) アワビ放流効果向上研究事業【基本事業名：31104 水産技術の研究開発と移転】  
予算額：(25) ー 千円 → (26) 3,500千円  
事業概要：海女漁業の経営安定化を図るため、コンクリート板を用いた漁場造成技術を三重県沿岸に導入し、造成した漁場に放流されたアワビ種苗の動態把握を行い、放流効果の増大を検証します。
- (新) みえの養殖水産物計画生産体制構築事業【基本事業名：31104 水産技術の研究開発と移転】  
予算額：(25) ー 千円 → (26) 9,000千円  
事業概要：養殖マガキの品質向上と生産の安定化に向け、早期採苗による養殖期間短縮の技術開発などを行うとともに、複数の魚種を組み合わせる「複合養殖」による、経営改善効果の検証、魚病の発生予防、飼料コスト削減に関する試験を実施し、養殖ビジネスモデルの確立に向けて取り組みます。

- (新) 海藻類の機能性成分を活用した食品開発事業【基本事業名：31104 水産技術の研究開発と移転】  
予算額：(25) ー 千円 → (26) 8, 0 0 0千円  
事業概要：海藻に含まれる機能性物質を把握するとともに、資源状況の把握と高品質原料供給に向けた収穫マニュアルを作成し、機能性を活用した新たなビジネスモデルを創出します。
  
- 食で生みだす絆づくり・輪づくり推進事業【基本事業名：31105 県民の皆さんと農林水産業の支え合う関係づくり】  
予算額：(25) 4 5, 6 7 5千円 → (26) 3 8, 2 7 3千円  
事業概要：食育・地産地消を進めるため、「みえ地物一番」の推進や、生産者と流通事業者等とのマッチング、学校給食への県産食材の導入、日本型食生活の理解促進を進める教育ファームの取組支援を行います。
  
- 農業環境価値創出事業【基本事業名：31105 県民の皆さんと農林水産業の支え合う関係づくり】  
予算額：(25) 1 0, 9 7 2千円 → (26) 1 0, 7 6 9千円  
事業概要：地球温暖化防止、生物多様性保全、地域資源循環等を目指した営農活動を支援するとともに、環境貢献度を示す指標を活用した効果的な消費者への情報発信手法の検討を進めます。